

令和6年度 いのちの授業 事例集（小学校）【その他】

掲載数

50

	地区	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1	川崎市	小5	その他	生命の尊さ	道徳の学習において、「命の詩-電池が切れるまで」という教材を使い、生命の尊さについて学習した。命の大切さについて考えさせ、限りある命を懸命に生きることや自分らしく精一杯生きてほしいというメッセージから、これからの自分の人生を懸命に生きていきたいと思いを強めた。そして、一日一日を大切に、楽しく過ごしていきたいと意欲を高めていった。	道徳 教科書
2	川崎市	小複合	その他	人権週間～自分や友だちを大切に、お互い認め合う～	子どもたち一人一人が違いを認め合い、互いの人権を尊重しあえるように、11月11日～15日を「だれもが大切！みとめあおう週間」（人権週間）として位置づけた。いじめ防止標語の作成、道徳の授業、関連する本の読み聞かせを行った。学習を通して、自分や友だち、生き物みんなが大切な存在であることに気づき、「これからも大切にしていきたい」「認め合うことの大切さを学んだ」と振り返っていた。	全学年で共通で実施
3	川崎市	小6	その他	人権について考える ～国境なき医師団の活動～	6年生の人権学習の時間として、国境なき医師団の活動を通じて人権について考えを深める時間をつくった。世界の実情を知り、NPO法人で活動する方々がどのような思い出取り組んでいるのかを知る時間となった。「自分の命も大切にしなければいけない」「世界に目を向けて自分のできることをやっていきたい」などの感想があった。	講師による講話 DVD等
4	川崎市	小複合	その他	生命の安全教育	各学年の後期身体計測時に、文部科学省の「生命の安全教育」動画を使用し、自分の体のこと、プライベートゾーンのこと、人との距離感のことなど、生きる上で自分や他者にとって大切なことを学んだ。動画がわかりやすく、子どもたちはしっかり見てくれ、所々動画をとめて養護が補足を入れながらすすめた。中学年以上になると、自分でできる工夫などの意見もでるなど、より自分ごととしてとらえている子が多いように感じた。	文部科学省「生命の安全教育」動画
5	川崎市	小1	その他	食育 「いろいろたべよう」	身近な存在である給食には、いろいろな食品が使われており、その食品の一つ一つには、それぞれはたらきがあること、また、自分たちの成長に関わっている食品を知ること、いろいろ食べようとする意識を高めたいと考えた。良い例と悪い例を視覚的に認識させ、「いろいろ食べることの大切さを知り、様々な食品を食べる子に育ってほしい」と願い、この授業を行った。 3匹のこぶたの紙芝居を用いて、食べ物にはそれぞれ働きがあり、いろいろなものを食べることが大切であることを伝えた。これからどのような食べ方をしたらよいかを考え、一人一人がめあてを立てた。健康で丈夫な体をつくっていくために、苦手な食べ物を食べようと挑戦する姿が見られた。	T1 担任 T2 栄養教諭

6	相模原市	小4	その他	防災教育 「起震車体験訓練」地震発生時に、落ちついて適切な行動がとれるようにする。	事前・事後指導は、社会科の学習と関連づけながら行った。大きな地震が起きた際、命を守る行動については、避難訓練等の機会に確認してきたが、いざ大きな揺れが起きた時に自分がどれだけ落ち着いて行動できるかは、想像できない児童が多かった。起震車体験は、震災時にどう動くかを安全に練習できる、貴重な体験であることを知らせて活動した。体験を通して地震で、多くの方が被害を受けていることを意識し、命を守るために自分たちに何ができるか考えを出し合った。	講師：相原分署の職員
7	相模原市	小複合	その他	全校花栽培活動全般	全校で学校を彩るために花栽培活動を実施した。生活科や理科の学習と絡めながら、命を育てるという意識の醸成、新しい命へのつながりなどの学習を行った。また、栽培に必要な活動（水やりや除草など）の必要性を子どもたちと考えながら活動を行った。	
8	相模原市	小複合	その他	いのちについて	「いつでも会える」「いのちの時間」の読み聞かせを行う。落ち着いて真剣な表情で聞くことができていた。自分自身を振り返り、感想文を書いた。命の有限さと大切さに改めて気づけた。	「命の時間」（ブライアン・メロニー作）「いつでもあえる」（菊田まりこ） 小3、4と合同
9	横須賀市	小複合	その他	不審者対応訓練	実際に不審者が現れた場合の対応方法や校内に不審者が侵入した場合の避難方法を確認した。教職員の的確な指示と子どもたちの迅速な避難を心がけ、自分のいのちは自分で守れるように意識を高めた。	
10	横須賀市	小複合	その他	引取り下校訓練（地震）	大きな地震は、いつ発生するかわからない。実際に2011年に起きた東日本大震災の被害（家の倒壊、家族に会えないなど）を聞き、もし今同じことが起きてしまったら…と自分事として捉え、真剣に訓練に取り組む様子が見られた。 また、保護者と下校する際に、実際に通学路を見回しながら、どんな危険が想定できるか考える様子が見られた。	作成したパワーポイントを活用し、事前指導。
11	横須賀市	小複合	その他	不審者対応訓練	学校内に不審者が侵入してきてしまったとき、命を守るための訓練を行った。不審者が侵入した当該クラス以外のクラスも、落ち着いて放送を聞き、真剣に訓練に取り組む様子が見られた。訓練後、講師の方から、2001年の池田小事件の概要を聞き、驚く姿が見られた。普段の生活の中でも、学校内を歩く大人に目を見てあいさつをしたり、何か気づいたことがあったときにはすぐに教師に伝えることの大切さを感じていた。	講師は、横須賀南警察署の警察官。 作成したパワーポイントを活用し、事前指導。
12	横須賀市	小複合	その他	いじめから自分を守る	されていやなことがあった時の対処「やめてと言う・逃げる・相談する」の必要性を考えさせた。「やめて」と言う練習をし、真剣に言うことを確認した。さらに、どんなときにいやな気持ちになるかを話し合った。暴力や言葉での攻撃は児童にとっては分かりやすかったが、無視されることや、じろじろ見られたりすること、写真をとられることなどは、初めて気がついた様子だった。「あなたは大切な存在」という教師のメッセージを受けとめていた。	参加児童：6名 特別支援学級2年生 特別支援学級3年生 教科等：道徳・自立活動

13	横須賀市	小複合	その他	いのちの始まり	自分の命は代々つながれてきた大切な命のリレーであること、両親の精子と卵子が会合によって命が始まることを知り、自分の命が何億という精子のうちから選ばれたかけがえのないものであることを考えていた児童がいた。胎児が母体の中で胎動している様子や音を動画で聞き、小さくても、見えなくても、母体に命が宿っていることを感じていた。また、出産直前の妊婦の体の重さを体験することによって、命を授かるということの大変さや苦労も学んでいる様子が見られた。	小2年と小5年で実施。 小2は生活、小5は理科の授業として実施。 講師は、助産師。 実際に出産直前の妊婦の体の重さを体験できたことで命の重みを知ることができた。
14	横須賀市	小複合	その他	グレイちゃんとの別れ	小学校で長年飼っていたウサギのグレイちゃんが亡くなった。小学校のどの職員よりも在籍年数が長く、朝会でも度々紹介され、稼業中は飼育委員会が、長期休業中は職員が代わる代わる大切に世話をしていた。年を越すのは難しいかもしれないといわれていたが、冬休み明けに亡くなっているのを確認した。それからすぐに全校放送でそのことを児童に伝え、グレイちゃんを悔やみ、授業の合間をぬってクラスごとに飼育小屋に出向き、箱に入ったグレイちゃんに黙祷を捧げた。どのクラスも、神妙さが伝わってきて、自分事として捉えていた。小規模校で生き物とふれあいやすい環境であること、そして何よりもみんなで大切に育ててきたからこそ、児童一人ひとりいのちの大切さについて実感できたのだろうと考える。	全校児童
15	湘南三浦	小1	その他	不審者訓練	小学校へ入学し、避難訓練や引き渡し訓練は経験済みである。子どもたちは、火災や地震についてはイメージしやすく、入学前に避難訓練の経験もあり、避難・引き渡し訓練は円滑に行っていたが、今回の不審者訓練は想像できない子も多く、詳しく具体的に事前指導をし、訓練に取り組んだ。事前指導では、不審者訓練をする意味や具体的にどのような行動をするのか、どのようなことをすると危険か、合い言葉や教室の鍵の閉め方、緊急時に押すボタンについて等各クラスで丁寧に子どもたちに伝えた。訓練時には、自分の命や友だちの命を守るために訓練をしていることを伝え、真剣に取り組む姿が見られた。	
16	湘南三浦	小1	その他	不審者侵入に備えた訓練	教職員は、教室前後ドアの鍵の設置場所、取り付け方、使い方やさすまの置き場所と使用者を事前に確認する。 不審者侵入に気づいたら即ALSOK警報ボタンを押す。 児童は校内放送を聞き、教職員の指示に従うようにする。 緊急時には訓練よりも長時間静かに待ち、やり過ぎさないといけない場合があることを伝え、少しのおしゃべりも命に関わることを指導した。	全校で実施 「こわい！あぶない！そんなとき『いかのおすし』で毎日安全」警視庁公式チャンネル 「防犯クイズ～こんなときどうする？」愛知県警察 NHKFORSCHOOL「子ども安全リアルストーリー『連れ去り』」
17	湘南三浦	小5	その他	音楽「Dream&Dream」の歌詞に込められた想い	合唱作曲家の弓削田健介さんが東日本大震災の復興を応援するコンサートの経験をもとに作詞作曲したこの歌を、音楽会の学年合唱で歌うことになった。歌の練習と並行する形で、歌詞に込められた想い、人と人、命と命、夢と夢様々なつながりの中で生きている自分たちについて考え、一人ひとりの児童がその思いを歌声に込めて音楽会で合唱を披露した。	道徳「おばあちゃんからもらった命」

18	湘南三浦	小3	その他	かいこの成長	理科の学習でカイコを育てた。卵から観察し、小さな命が育っていく様子を数ヶ月かけて見てきた。エサとなる桑の葉を採ってきたり、週末持ち帰ったりして、愛情を注いできた。途中で上手くさなぎになれなかったり、繭がはけずに亡くなってしまったカイコをみて、大人になることは、当たり前的事ではないことも学んだ。	かいこ
19	湘南三浦	小1	その他	食育 (国語・生活・給食など横断的な学習活動)	①「そらまめくんのベット」の読み聞かせ(司書教諭) ②そら豆の説明と剥き方の指導(栄養教諭) ③そら豆の観察と鞘剥き(担任) ④観察カードの記入(担任) ⑤そら豆をまとめて給食室に届ける ⑥給食で実食 ①～⑥の一連の学習活動を通して、食への関心を高めることを目標にした。「そら豆」が苦手な子どもが多い中、給食では「挑戦する!」「苦手だけど食べられた!」など、前向きなつぶやきが多くの聞かれた。	
20	湘南三浦	小複合	その他	交通安全教室	茅ヶ崎警察署、市役所安全対策課、そして地域の見守り隊の方にもご協力をいただき、1年生(歩き方)と3年生(自転車)を対象に交通安全教室を行い、交通ルールを知っているだけではなく、しっかりと守ろうとする意識を育んだ。また、不審者対応の心得についても学び、自分の安全を自分で守ろうとする意識を高めることができた。普段登下校を見守ってくださっている地域の方にもご参加いただき、子どもたちの視点からの交通安全について共通理解を図ることができた。	茅ヶ崎警察署 市役所安全対策課 地域の見守り隊の方
21	湘南三浦	小3	その他	一人ひとりが安心できる居心地の良い学級を目指して	得意・不得意、好き・嫌い、自信の有る・無い、そして容姿や体格。どんな違いも互いに受け入れ、どんな子ども居心地よく過ごせることを目指し、「みんなの安心」をキーワードに繰り返し実践した。	
22	湘南三浦	小2	その他	避難訓練 事前及び事後指導	避難訓練の事前及び事後指導で、「釜石の奇跡」とも言われている、釜石東中学校などの事例を取り上げて児童に話した。地震と津波が発生した際、児童や生徒がこれまで避難訓練などで学んだことを思い出し、各々が自分の命を守ったほか、家族や地域の人たちにも避難を呼びかけたことを話した。子どもたちは、終始話を真剣に聞いていて、釜石の子どもたちの行動に驚いた様子だった。訓練に対して、気を引き締めて取り組んでいるように感じた。	
23	県央	小複合	その他	人権週間 ピンクシャツデー	年間を通して、ピンクシャツデーの取り組みを行ってきた。その集大成として、人権週間に「人権朝会」を行い、自分も友達も一人一人が違うことを知り、それぞれの違いを大切にす一週間だと話をした。そして、「皆が楽しい、先生たちも楽しいと思える学校にしよう。」と呼びかけた。 「いじめがおきにくい学校」にするにはどのような取り組みをしていけばよいのか、いじめをなくすためにどのように過ごしていけばよいのか、一人一人ピンクシャツカードに記入し、学年ごと廊下に掲示をした。また、「思いやりって何だろう」をテーマにして、クラスで話し合いをし、それぞれのクラスがクラス目標として、言葉を考えた。	全学年での取り組み

24	県央	小1	その他	「防災教室」 学校で地震が起きた時のみの守り方を理解し、身に付ける	教室で地震が起きたときの身の守り方について考え、実際に身を守る行動を体験した。また、特別教室や階段、廊下、トイレなどにいるときに地震が起きた場合の身の守り方も確認し、どのように行動すればよいかを学習した。	
25	県央	小複合	その他	人権週間の取り組み	校内人権週間期間中、福祉委員会がピンクシャツデーに取り組んだ。 ①ピンクシャツデーの啓発 ピンクシャツデーの成り立ちや意義を説明した後、「私はピンクの〇〇を身につけようと思う。」と、自分ができることを宣言する放送を毎日行った。 ②クラスで差別・偏見をなくすための行動目標設定 ピンクの画用紙でシャツ型を作って全クラスに配布し、各クラスで決めた行動目標を書いて、教室に掲示した。 以上の福祉委員会の取組は、毎月の教員主導のピンクシャツデーに対する意識を変え、児童が主体的にいじめ撲滅を考えるものとなった。	全校児童
26	県央	小複合	その他	交通安全教室	命を守るために全学年を対象に交通安全教室を行った。 3、5年は、厚木警察による交通安全講話を受け、交通ルールを確認した。具体的には、正しい歩行や自転車の乗り方、夜道の服装等について知った。 1、2、4、6年は、DVDを視聴し、交通安全について、意識を高めた。 交通安全教室を通して、今後の事故防止に役立て、一つしかない命を大切にしていくことを学んだ。子どもたちは真剣に受け、実例を聞いて、気を付けようという意識が高まった。	厚木警察による交通安全講話
27	県央	小1	その他	命の授業	「うまれてきてくれてありがとう」の学級活動を行った。 「うまれてきてくれてありがとう」「今ここにいてくれてありがとう」「育ててくれてありがとう」「この小学校に来てくれありがとう」「会えてうれしいよ」 お腹の中にいた時から成長していろんなことができるようになったことはすごいこと。「一人一人がたからもの」であること。たからものを大切にしてほしいこと。想いを担任と養護教諭が伝えた。真剣な目で一生懸命に授業を受けていた。	
28	県央	小複合	その他	「防災教育」 地震から命を守る	2学期から体育館の工事が行われ、避難場所や避難経路の見直しが必要となった。1学期に行った火災の訓練とは、異なる避難の仕方となった。緊急避難の際に、どのように行動すると良いか考え、指示に従って落ち着いて行動できるように訓練を行った。地震の時の避難の仕方や、避難経路、「おかしも」の約束を理解し行動することができた。	
29	県央	小複合	その他	不審者対応訓練	不審者が校舎内に侵入したという想定のもとで、不審者侵入時の身の守り方などを知り、状況に応じて適切な行動ができるようになることを目的として訓練を実施しました。事後指導では警察の方の話を聞き、ショックを受けている子の心のケアや不審者に対する自分の行動について振り返りを行いました。児童は、「もし不審者が侵入したときに、どう行動するか」について真剣に振り返り、自分の命の大切さを実感して、命を守る防犯意識が向上がしました。	講師 海老名警察署署員

30	県央	小複合	その他	いじめ防止・人権	「みんななかよく」等動画を視聴し仲良くすることがどんなことなのかについて、どの学年でも考えられた。	人権担当
31	県央	小複合	その他	防災教育 「火災を想定した避難訓練」	全校で1階理科室から出火したという想定で避難訓練を行ったが、雨天のため校庭には出ず、昇降口までの避難という形をとった。その後校長先生から神奈川県内の小学生が書いた作文が紹介された。東日本大震災の時、友達は今々に保護者に引き渡されていく中、自分のお母さんはなかなか職場から迎えに来られず、最後の一人になってしまう。それでも数時間後、母は歩いて学校まで迎えにきてくれ、言葉にできない安心した気持ちが綴られている。東日本大震災を経験していない児童にとって、その怖さや日常が失われることの不便さを知る機会となった。「自分の命は自分で守る」という個人の意識が大切であると同時に、災害の時には、家族との絆や人の優しさが命を救うということも学ぶ訓練となった。	～作文コンクール～ 高学年の部 優秀賞 作文
32	県央	小複合	その他	性に関する指導	1～6年まで、各学年の実態に合わせて性に関する指導を行った。4～5年では思春期の体の発達と心の発達について学んだ。	養護教諭・担任
33	県央	小複合	その他	全教育活動における道徳教育推進の取組 「互いを理解し、尊重し合う 心情・人権意識を育てる」	◎多様性の尊重についての授業 ・道徳教育目標のなかに要として位置づけられている「人間尊重の精神」を育んでいく人権教育の一環として、1・2年生を対象に絵本「耳の聞こえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ」と「せかいでさいしょにズボンをはいた女の子」の読み聞かせを行い、個性・多様性の尊重について考える機会を設けた。また、今年度1月には6年生を対象に「性の多様性」をテーマにした「からだ・こころ・いのちの学習『いろいろな性ってなんだろう？』」という授業を行う。多様な性のあり方について学ぶことで一人ひとりがもつ個性に気づき、自己と他者の違いを認め合い、互いを尊重する寛容な態度を育むことになげられるようにしていく。この取組は次年度以降も続け、多様性の尊重やインクルーシブな共生社会の実現に向けた行動についての理解を、児童・職員・保護者共に一層深めていくようにしていきたい。 ・ピンクシャツデーの成り立ちの劇。人権週間の前日、朝会で教員による劇を行い、ピンクシャツデーへの理解を深めた。非暴力によるいじめへの抗議は児童への新たな意識を喚起させられたのではないか。翌日の人権週間には、ピンクのものを身につけて優しい気持ちを表現しようとする児童が多く見られた。	実施学年：1・2年、6年 教材：絵本「耳の聞こえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ」、「せかいでさいしょにズボンをはいた女の子」 ・全学年
34	中	小複合	その他	みんな友達	自分が見たことや感じたことなどを、悪気なく率直に言葉にする児童がいる。学校生活の中で、場面を捉えて指導をしている。その場面では、振り返って、適切でなかったということを知ることにはできるが、繰り返し働きかけていくことが必要である。「てるちゃんのかお」の読み聞かせを通して、登場人物の気持ちを知り、お母さんの周囲の人への働きかけや、てるちゃんをとりまく周囲の人との関わりを知ることができた。見目で嫌な思いをすることはよくないことや、誰とでも変わらずに友だちとして仲良くすることがよいことだという感想をもつことができた。	

35	中	小 1	その他	「災害が起きた時の身の守り方」	地震時の身の守り方についてあらゆる場面を想定した避難方法について学習した。1月には阪神淡路大震災の起きた月でもあり、また、前週に南海トラフ地震の発生確率が引き上げられたこともあり、ニュースなどでも大変多く耳にしていたので意識も高まっているところであった。学校での避難方法はもちろんであるが、児童からは登下校中に大地震にあったらどうしたらよいかという疑問が多く出たので、千葉県公式動画「安全に登下校するために」を見て自分たちの通学路と重ね合わせて考えた。また、地域の特性から、地震後あるいは大雨の後などに土砂崩れの危険もあり、自分の住んでいるところの周りにどんな危険が潜んでいるのかハザードマップなどを活用して知ることもできた。	
36	中	小 5	その他	学活 「疑問に答える」	性への興味・関心が高まってきている5年生。そこで、心、体、命、性の4つのテーマでアンケートを取り、多い質問について養護教諭と担任で疑問に答える形で学習した。共通の悩みも多く、それらについては保健の教科書にも学びのヒントがたくさんあった。第二次性徴の大切な時期に、なんでも聞いて良いこと、メディアやネットの情報に振り回されないこと、自分を大事にすること等ポイントを伝えた。	
37	中	小 2	その他	「命の大切さを学ぶ」	牛の解体作業の方の話が載っている「いのちをいただく」という絵本から、自分たちは食べているものを通じて、様々な生き物の命をいただいていることについて考えた。食べることの大切さと命をいただいていることの大切さを学んだ。	
38	中	小 3	その他	絵本「いのちのまつり」ヌチヌグスージ」を読んで」	いのちの始まりが、1ミリの大きさからスタートすること、10か月の期間、お母さんのお腹の中で大切に育まれてきたこと、そして命がけで自分を産んでくれたことを絵本を通して学び、お家の人への感謝や自分のいのちの尊さに改めて気づくことができた。	
39	中	小 2	その他	おへそのひみつ	おへそのひみつでは、保健士さんを講師としてお話をしていただいた。子どもたちは始まる前からどんな秘密があるのかを楽しみにしていた。命の始まりが子どもたちに配られた紙にある点の大きさからだと言うことに衝撃をうけていた。そこから、赤ちゃんはブルーベリー、イチゴ、かぼちゃの大きさに育ち、やがて生まれてくる頃には3キロ程度になることを知った。そして、赤ちゃんのお人形を抱っこしてみると、見た目より重く首が座らないと抱っこがしにくいことに気づき、親の大変さを知り、また大事にされていたことに改めて気づく時間になった。	
40	中	小複合	その他	不審者対応訓練	不審者が校内に侵入したことを想定し、児童の安全を守るための教員と児童の行動を、学校全体で確認・練習した。 事前に、大阪の池田小の事件とやまゆり事件の概要について全教員が改めて共有した。各学級では児童に命の大切さや尊重されるべきものであるという話をした。児童は、自分、他者、どの命も皆一つだけのものであり守られるべきものであるということを、事前学習や訓練から学んだ。皆真剣に訓練に取り組み、不審者が侵入してきたときの行動の仕方を確認できた。	・大阪教育大学附属池田小学校事件に関して http://osakakyoiku.ac.jp/safety/fuzoku/ikd/goui/jikengaiyo.html - より抜粋 ・やまゆり事件について

41	中	小2	その他	おへそのひみつ ～いのちのつながり～	「赤ちゃんがお母さんのおなかの中で、へその緒を通してどのように過ごし成長してきたかを知るとともに、赤ちゃんが誕生するまでに、家族の愛情や保護があったことに気づき、自他のいのちを大切にしようとする気持ちをもつ」ことをねらいとして学習を行った。 おへその役割を考えるため、おへそのある動物とない動物を分類する導入を行った。その後、おへそがある人間は胎生であることをおさえ、胎児パネルや赤ちゃん人形を用いて、おなかの中の赤ちゃんの様子や、赤ちゃんが生まれる様子について学習を進めた。 最後に、絵本「生まれてきてくれてありがとう」の読み聞かせを行い、おなかの中の赤ちゃんへの愛情について考え、振り返りを行った。	養護教諭による授業 絵本「生まれてきてくれてありがとう」
42	中	小1	その他	わたしのからだ ～からだのせいけつ～	目や耳など自分の体についているものの働きから、男女の体の違いについて学習した。そこから、プライベートゾーンの話を通して、体を大切にすることについても学習した。体を守るために、「守ること」「強くすること」の2つをあげ、こういった行動が大切にするという行動なのか考えることで、自他の体を大切にしようとする気持ちを育むことができた。	養護教諭がT1、担任がT2として授業
43	中	小6	その他	いのちの話	たくましく生きる力を持ちそなえていること、自分自身ががんばって生まれてきたかけがえのない大切な存在であること、いのちを大切にすることは自分自身を大切にすること、自分を大切に出来ることで他人のいのちも大切に出来るということ、「生きているだけで100点満点」ということを伝え、自分自身のいのちのはじまりから誕生までを知ることで、「自分のいのち」＝「自分」がかけがえのない大切な存在であることを実感できる講話をしていただいた。	講師は、いのちの大切さを伝える助産師の会の助産師
44	中	小複合	その他	不審者対応訓練	不審者対応訓練として、不審者の校内侵入など、緊急時に備え、安全を確保する訓練を行った。的確な指示と迅速な避難を心がけ、自分のいのちは自分で守れるように、体制を確立した。	
45	県西	小複合	その他	わかあしタイム 「当たり前を大切に」	本校の特別支援学級（わかあし級）では、「わかあしタイム」で障害種別を越えて集まり、年中行事や季節の話、学校行事に関連付けたクイズ形式の講話などを児童の発達や理解度を考慮しながら行ってきた。 本テーマでは、令和6年1月の能登半島地震や被災地の人々の暮らしについて児童が知っていることを話したり、災害時に自分だったらどう行動するかを考えたりすることを通して、今の自分たちにとって「当たり前」なことが当たり前ではない人々もいることについて理解を深めた。	特別支援学級（知的・自閉症情緒）41名を対象に自立活動として行った。
46	県西	小複合	その他	避難訓練（災害から命を守る）	本校の学区は相模湾・酒匂川・山王川に囲まれた地域にある。そのため、地震や津波に対応していくことは重要な課題である。 地震発生後1分以内に大津波が来る想定のため、地震発生とともにヘルメットなどで頭部を守りながら高所避難をする方法をとっている。場合によってはシェイクアウトが必要になることもある。年間を通じて行った避難訓練の校長講話の中では、能登半島地震など、様々な災害と関連させながら命の大切さについて指導を行った。	・校長 ・防災担当 ・各担任

47	県西	小複合	その他	自然災害について考え、被災地の子どもたちを応援しよう	能登半島地震の現在の被災地の様子を知り、現在も元の生活を取り戻せていない被災地の方を応援したいという気持ちを育むことをねらいとして実施した。児童は被災地からのビデオメッセージを見て、地震の怖さを知り、また、被災地の小学生たちがどのように過ごしているのかに思いを馳せて、応援しようという気持ちを高めていた。山北町商工会青年部の方と連携して、児童が書いたメッセージをお菓子と一緒に届けた。様々な人の思いを知り、いつ起きるか分からない自然災害について考え、命の大切さを実感する機会となった。	全校児童対象 ・避難訓練後に本校職員の話の後、被災地の方とつながりのある青年部の方のお話を聞いた。 ・能登半島地震の現在の被災地の様子の映像とメッセージを聞き、より理解を深めた。
48	県西	小6	その他	大切な命と安全防災意識を高めよう	講師の方をお招きして、講話を聞いたり、体験したりして防災意識を高めた。体験コーナーでは、蓄光テープの特徴を知り、それぞれの家庭でどのように活用できるかを考えたり、大地震の際に火を出さないための工夫や、知らせる備えとして火災警報器などがあることを実験を通して理解したりした。また、防災倉庫に備えてあるものを実際に触ってどのように使うのかを確かめた。人を救助するためには、身近にあるものが生かせることなどに気づき、自分も活用してみたいと感想を述べていた。	講演「防災意識を高めて自分の命は自分で守れるようになろう」 秦野市市民団体QQ防災クラブ代表の防災士 体験コーナー ・蓄光テープ体験 ・家の防火対策紹介 ・トランシーバー通話体験 ・防災倉庫の道具紹介
49	県西	小5	その他	思春期教室 自分を大切に 周りの人を大切に	第2次性徴による心と体の変化についての学習を通して、命の大切さや、自分や周りの人を大切にすることを学んだ。卵子と精子が奇跡的な確率で出会って自分たちが生まれていること。体の成長や性の認識には個人差があることを学習し、実際に生まれたばかりの赤ちゃんの人形を抱く体験も行った。	講師 箱根町役場子育て支援課職員
50	県西	小1	その他	自分の体ってすごい	「かさぶたは、血でできた傷のふた、まるで、しぜんのバンソウコウみたい。ほら、かさぶたのしたでは、新しい皮膚がどんどん作られています。」子どもに身近なかさぶたをめぐってユーモラスに展開しながら、身体の不思議をときあかしていく科学絵本の読み聞かせを行った。自分の体の仕組み、不思議を知ることができた。難しい言葉もたくさん出てくるが、子どもの生活に根差した場面や言葉遣いにひきつけられていた。体には治す力、守る力備わっていることに気づかせ、自分自身の持てる力を見直したり、実感したりするきっかけとなった。	絵本「かさぶたくん」 柳生弦一郎 作・絵 福音館書店